全戸配布

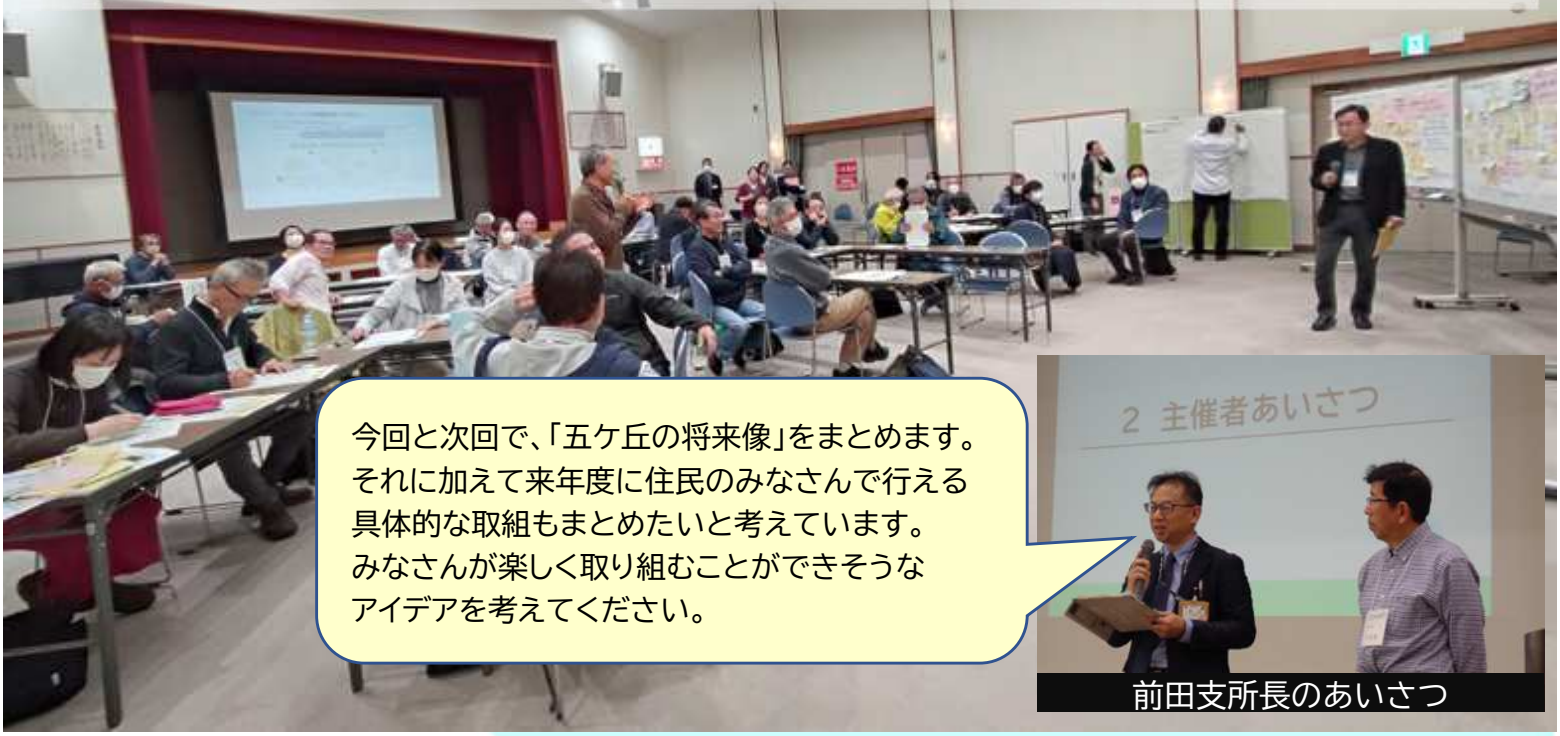
五ケ丘まちづくりニュースレター

第8号

令和７年度 第５回五ケ丘まちづくりワークショップを開催しました！

１１月２９日（土）に、令和７年度第５回「五ケ丘まちづくりワークショップ」を益富交流館で開催し、３１名の方にご参加いただきました。

今回は、第２回～第４回のワークショップにおいて、参加者の皆さんにご記入いただいた『あなたが考える 五ケ丘の「ありたい姿」・「なりたい姿」カード』の意見を素材として、「五ケ丘の将来像を考える」をテーマに開催しました。



今回と次回で、「五ケ丘の将来像」をまとめます。
それに加えて来年度に住民のみなさんで行える具体的な取組もまとめたいと考えています。
みなさんが楽しく取り組むことができそうなアイデアを考えてください。

前田支所長のあいさつ

あいさつ

高橋支所の前田支所長から、「五ケ丘では公共施設の活用を見直す時期にあり、これはまちづくりを考えるうえで絶好の機会だと考えています。この機会を逃さず、まちづくりを進めていただきたい。」とのお話がありました。

①五ケ丘団地 開発当時の将来像

ワークショップの進行役である（一社）地域問題研究所の押谷氏から、五ケ丘団地の開発主体であった日本住宅公団（現・ＵＲ都市機構）が、当時、五ケ丘の将来像をどのように描いていたのかについて紹介がありました。

今回のグループワークでは、これを参考に、住民主体で改めて将来像を考えました。

AIの力を借りて、
当時の将来像を
再現してみました。

★ キャッチコピー

「緑と丘の街、家族の笑顔が広がるニュータウン」

★ 将来像

緑と丘に囲まれ、健康的なくらしのできるまち
歩いて暮らせる自立したまち
子育て世代を中心としたコミュニティのあるまち
将来に対応できる柔軟な住宅設計ができるまち

②グループワーク　『五ケ丘の将来像を描いてみよう！』

５つのグループに分かれて、五ケ丘の将来像を考えました。

［Aグループ］ 高齢者も子育て世代も子どももつながりがあって、便利な住みたくなるまち	・助けあえるまちにする。仲良くないと助け合うことはないので、仲良くなることが大事。 ・便利でないと人は来ない。 ・オールドタウンをリニューアルしていく。
［Bグループ］ 心地よいつながりと ゆるやかな世代交代による みんなのふるさと五ケ丘	・安心して生活できるまちにしないといけない。 ・緑、移住･転入、コミュニティ、交流、外出のきっかけ、安全･安心などについて話し合った。 ・町の象徴のようなものがあるといい。
［Cグループ］ 誰とでも話せる 元気いっぱいの おしゃれで便利なまち	・あいさつ、集う交流のまち、歩いて暮らせるまち、生活完結･便利なまち、元気なまち、多世代若者が楽しめるまち、おしゃれなまち、子どもの声が響くまち、これら意見が出た。
［Dグループ］ 一歩進んだ声がけ・背中を押してくれる⇒おせっかい・世話焼き⇒支え合い	・いい意味での“おせっかい”“世話焼き”､顔色見て「大丈夫？」と言えるおせっかいができるまち。 ・結局、「ささえあえるまち」となった。 ・色々な世代が支え合った明るく元気なまちに。
［Eグループ］ 五ケ丘　Ｒｅｂｏｒｎ！ 五ケ丘を愛する高齢者が若い人が住みたくなるまちをつくる	・コンセプトは 五ケ丘 Reborn! 五ケ丘が生まれ変わる。住みやすいまちを、ここにいる元気な高齢者が率先してつくる。 ・元気な高齢者＝リソースはいっぱいある。

③講評　◇牧野　篤 様（大正大学教授、東京大学名誉教授、五ケ丘地区まちづくりアドバイザー）

グループワークでは「つながり」を大切にするという意見が多くみられました。千葉県柏市の高柳地区では、高齢者と子ども世代の孤独、“さびしい”を解消するため、他人の孫と交流する「地縁のたまご」プロジェクトを創出しました。結果として、子育てにやさしいまちとして評判を得ています。五ケ丘でも五ケ丘らしい方法で世代をつなぐ循環型のまちづくりの可能性がたくさんあるように思います。

④今後のワークショップについて

・**第６回１２月１４日（日）10:00～12:00　テーマ：五ケ丘の将来像を考える②**
（第５回で各グループで描いた「まちの将来像」を一つにまとめて、今後、住民のみなさんで行える具体的な取組のアイデア出しを行います。）

⑤第２回 五ケ丘まちづくりミーティングについて

・**２月７日（土）14:00～16:00 五ケ丘東小学校 体育館**
（ワークショップ参加者のみなさんが主役となって「まちの将来像」を発表していただきます。）
※これまでのワークショップの内容については市ＨＰでご覧いただけます。

【発　行】五ケ丘自治区連合会、豊田市（高橋支所地域振興担当）令和７年１２月
【連絡先】電話：0565-80-0077、メールアドレス：takahashi-shisho@city.toyota.aichi.jp